



3.11東日本大震災を語るつどい感想

宮城支部による「3.11東日本大震災を語るつどい」は、遅い時間にもかかわらず、会場からあふれるほどの参加者が集まり、その報告に聞き入りました。感想を紹介します。

私は8月4日に、山梨県の高校養護教諭の研究会の中で精神科医（チームを作り定期的に被災地にボランティアに行っている医師）から次のような話を聞いています。心のケアに関わる養護・保健師などに対しての強いメッセージ「今後被災地での自殺者は増える。それをどうくい止めるか」ということでした。山梨でも被災者が転校してきて、様々な学校で受け入れをしています。その人たちの命を守るためには、という話を聞いたばかりでした。

現場の声を聞いて、改めて養護教諭としてできること、それから頑張っている子どもたちだけにおもいきり泣けるようになっていくのが逆に心配になります。先生方もがんばりすぎではと思います。精神科医が言ったことば 丁寧に心の声をきく

そういったことに力になれる一人でありたいと思いました。 Iさん（山梨）

今、同じ部屋の中に被災に遭った人と一緒に居ることがとても不思議な感じがした。メディアを通しての情報よりも、生の声というのはとても悲しみや辛さなどが伝わってきた。3.11以降、日本の各地で地震が発生して、みんなが心配・不安・恐怖を募らせているだろう。被災地の子どもも大人も生活の急激な変化でストレスは半端ないと思う。復興のためにできることはわずかかもしれないが、この震災について知り、伝えること、今後に生かしていくことが私たちの大きな役割だと感じた。メディアでは映されない、語られない深刻な内容ばかりで、大変貴重であった。制野さんたちのように、悲しみに耐えながらも、アクションを起こすその強さに感動した。

Oさん（愛知）

私は宮城県の出身で、東京でのニュースを見て、本当に恐ろしく不安に思いました。連絡のつかないことの不安は、私を一番苦しめたように思います。でも被災された宮城の人たちのことを思うと、胸が痛いです。実際に地元の人たちに話を聞くと、東京で「被災者の気持ちになって考えよう」とか「できることをやろう」と言われていること



が本当にいいことなのか、余計に被災者の人たちを苦しめているんじゃないかと思うこともありました。私は宮城に戻る、戻って先生をやると決めて、東京に出てきました。自分が何事もなく生活していること、宮城の人たちの辛さに何もできないでいること、本当に辛いです。怖いです。そして将来、宮城に戻った時に、何も経験していない私に何ができるか。子どもたちとちゃんと向き合ってあげられるのか、正直自信がないです。でも私は、宮城が大好きだから、戻って宮城のために、宮城の子どもたちのために力になりたいと思っています。まとまらない文ですみません。先生方もがんばらずに。

Sさん（東京）

自治能力を自分は持っていない。同志会の支部を立ち上げる時に、会議の持ち方、進め方の一部を教えてもらった気がする。もう一つは組合活動の中で、自分たちの生活を守るということを教えてもらった気がする。今の時代、この二つは特別な経験に属している。となると、学校の中で自治の経験がないと、避難所は地獄になる？自分のこととしてとらえるという話は耳に痛い言葉です。

Aさん（岡山）

子ども学校楽しんでます！

元気に出発した子ども学校のメンバー。カレー作りにきもだめしと、楽しくすごしたようです。



↓いただきま～す！

← 青梅にとうちゃ～く！

一生懸命カレー作り→



きもだめしこわかった
おやすみなさい！



残念！沖縄支部のみなさんが・・・

なんと台風の影響で飛行機が飛ばず、来ることができません。文化交流の夕べもとても楽しみにしていたのに、残念です。

8月7日(本日)の予定は、「東京物語」4号をご覧ください。

8月8日(明日)の予定です

・ホテルに宿泊の方は、チェックアウトしてから和光中学・高校に集合して下さい。
分科会は9時からです。

町田発上り 7:55各駅 8:04準急 8:10準急 8:16各駅 です。

平日は急行が多いのでご注意を！

鶴川駅よりバス鶴11系統か鶴12系統です。

12時に分科会終了後、すみやかに第一体育館にご集合下さい。

おまけ



Tシャツはサイズによっては
すでに完売！お求めの方は急
いでね！

E G G 書籍販売コーナーの
販売員2人。
親子ではありません。
レアな本がいっぱい！

